

## 第13回 今後の自動車事故対策勘定のあり方に関する検討会 議事概要

1. 日時 2023年2月7日(火)14:00～14:51
2. 場所 Web会議形式
3. 出席者 藤田座長、佐藤委員、戸崎委員、福田委員、榎委員、麦倉委員、小沢委員、加藤委員、桑山委員、古謝委員、坂口委員、金子委員、徳政委員
4. 議事  
事務局から資料1～3、および参考資料に沿って説明を行い、その後意見交換を行った。

### 【最終とりまとめについて】

- ・ 厳しい財政状況が永続するような表現、とりわけ新型コロナウイルスが今後も永続的に一般会計の財政事情を厳しくしている要因かのように見えるのは適切ではない。「足元では」「現下の」など、この論議をした時の状況が分かる表現の方がいい。
- ・ **賦課金の仕組みにかかる検討の記載が、初めから賦課金ありきという意見だけを記載する今の表現であると、あたかも検討会では淡々と「合理的である」と結論づけたかのような誤解を招いてしまうと危惧する。**この議論については、ネットで誤解による批判が流れるなど、そもそも理解されていない実態もあるので、まずは賦課金の議論を行う前に、ユーザーへの理解促進が必要、とこれまでずっと主張してきたところ。そのような議論もあったが、被害者支援の必要性に鑑み、ユーザーの理解促進と並行して進めることにした、という我々の議論のプロセスを末尾等に付記してはどうか。
- ・ 一般会計の財政事情が厳しいのはコロナのせいではなく、コロナ前からであり、コロナでさらに悪くなったという言い方が正しい。コロナが終わればよくなるわけではないので、そこの記載は正確にしてほしい。
- ・ **概要(【資料 2】)中、今後の被害者支援事故防止対策の財源に関し、社会の大きな転換点となる 2040 年ごろをターゲットとして、積立金 500 億円規模になるように取り崩しという書き方になっているが、これだと積立金を 500 億円にするのが目的になっているように見えてしまう。**最初から 500 億円ありきで、どんどん取り崩していくというように誤解される可能性があるため表現を修正したほうがいい。

### 【広報について】

- ・ ポータルサイトは非常にやわらかい印象で、大変好印象を持った。
- ・ 広報に関し、今後どのように効果検証をしていくかは大きな課題であるため、今からしっかりと

用意していく必要がある。また、様々なメディアが出てきている中で、特に若い人向けの効果的なメディアはどれなのかということを考えていく必要がある。

- ・多くのご遺族から「今までの国のポスターとはちょっと変わった」「見やすい」といった声があった。
- ・一般ユーザーも事故の加害者・被害者になり得る。今まで以上に情報を発信していくことは一般ユーザーにとってもメリットになるため、これまで以上に広報面に光を当ててほしい。

#### 【被害者ノートについて】

- ・被害者やご遺族から「非常に分かりやすい」「良く出来ている」「国土交通省版が一番見やすいのではないか」といった声があった。またこちらに連絡して来られた方に被害者ノートを紹介したところ「持っています。分かりやすい」と言われた。各専門家の皆様や当事者の皆様にしっかりコメントを書いていただいたことも非常によかった。

#### 【今後についての要望】

- ・全額の繰戻しに向けて財務省への一層の働きかけの強化を引き続きお願いしたい。
- ・警察との連携は非常に効果的だと思うので、ぜひ推進してほしい。特にナスバギャラリーでは、継続的に交通遺児の作品や後遺障害者の活動状況の展示をしており、通りがかりの方からも非常に反響があった。警察と連携することによって、交通安全被害者支援の周知広報をより効果的に図れるので、今後も力を入れて推進してほしい。
- ・誰にとっても分かりやすく充実した事故防止対策・被害者支援を今後も両輪で行ってほしい。
- ・今後も積極的な被害者対策と事故防止対策の施策を両輪で展開してほしい。

以上